

讃岐地域における古墳時代中・後期の土師器

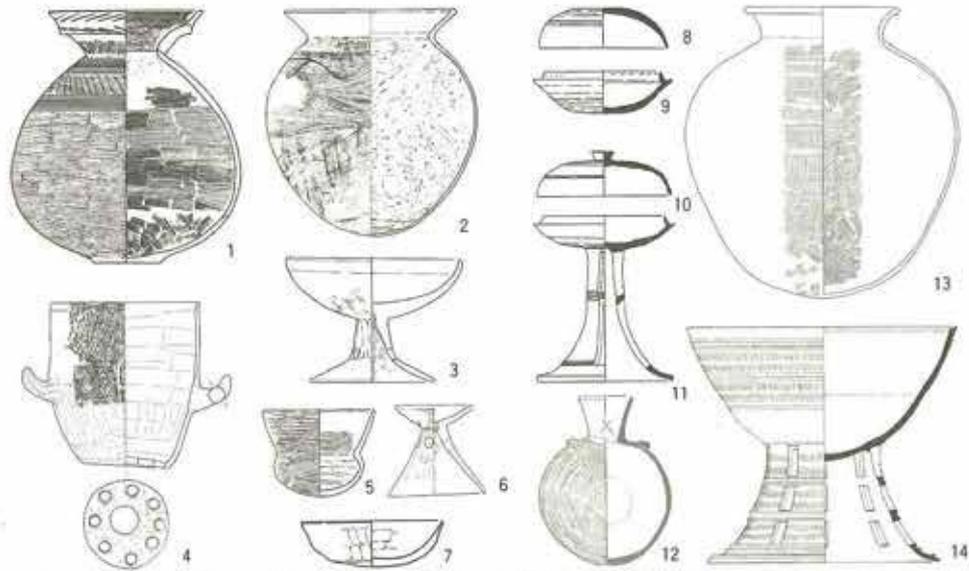
香川県埋蔵文化財センター
主任技師 井田 智

1 はじめに

(1) 土師器とは

①土師器の特徴

	土師器	須恵器
系譜	在来の土器 (弥生土器)	外来の土器 (朝鮮半島伝来)
焼成	野焼き 約700～900℃	窖窯 1,200℃～1,300℃
色調	黄褐色～赤褐色	暗灰色～灰白色
その他	薄手で割れやすい 粘土紐巻き上げ	精巧で硬く液体が漏れにくい。 ロクロの使用



1:壺 2:甕 3:高杯 4:甗 5:埴 6:器台 7:杯 8:(杯)蓋 9:杯 10:(高杯)蓋 11:高杯
12:提瓶 13:甕 14:器台 (1～7:土師器、8～14:須恵器) (縮尺・表現法不同)

古墳時代の土器

文化庁文化部記念物課編 2010『発掘調査の手引き—整理・報告書編—』天理時報社

②土師器の名称

i) “土師” という名称

・古代文献(『令集解』、『延喜式』、『日本書紀』雄略天皇17年条)に由来する古典的名称。

ii) 学術用語としての“土師器”

・過去には“素焼土器”、“埴瓮土器”と呼ばれていた。

・色調や質、古墳時代に属する土器 → “土師器”

(2) なぜ“古墳時代中・後期”を対象とするのか

①古墳時代中期以降の変化

- i) 政治的交渉・人の渡来等を通じた中国大陸、朝鮮半島からの文化的影響
 - ・横穴式石室の出現、製鉄技術、鍍金技術、など
- ii) 土器における変化
 - ・須恵器の出現
 - 本格的なロクロ使用の土器製作技法、窖窯による焼成法の採用。
 - 日本の窯業史における画期的な変革。
 - ・土師器
 - 須恵器出現前後における土器製作の規範の変質
 - 朝鮮半島に起源する新たな器種の登場。

②列島広域でみられる須恵器出現前後の土師器の変化

- i) 布留式土器（図2・3）の粗雑化
 - 須恵器導入出現前後には、「精製器種」は姿を没し、かわって粗製丸底壺など粗雑化したものが出現する（西1986）。
- ii) 新たな食生活習慣の定着と普及
 - 朝鮮半島に由来する食生活の影響で器種構成が大きく変化（図4～6）。
 - ・須恵器と土師器の供膳具が併存（田嶋1995）。
 - ・椀、杯の波及、定量化（田嶋1995）
 - 椀、杯を主食器とし、高杯を従食器とする食器の組み合わせが成立（田嶋1995）。
 - ・長胴甕・甑・鍋が用いられる新たな煮沸形態への移行（田嶋1995）



図7 カマドによる調理の模式図
(九州歴史資料館 2023 『土器が語る。多文化交流の町、西新町遺跡』～国内外あちこちから来ました～)

2 先行研究と課題・目的

(1) 古墳時代中・後期を対象とした検討

- ・讃岐地域全体を対象とした検討は少ない。
 - 【要因】良好なセット関係にある資料の不足、須恵器の編年研究を重視。
- ・一部、個別遺跡の資料報告で分類・編年試案が提示されている。

(2) 先行研究

①片桐孝浩

- ・須恵器出現前後の土師器について、型式的な変化が追える高杯の杯部形態（杯底部と口縁部の境の屈曲部の段または稜、口縁部形態）、および法量を中心に高杯の前後関係を検討（図8、表2）。
- ・高杯を基軸に編年試案を作成（図9）

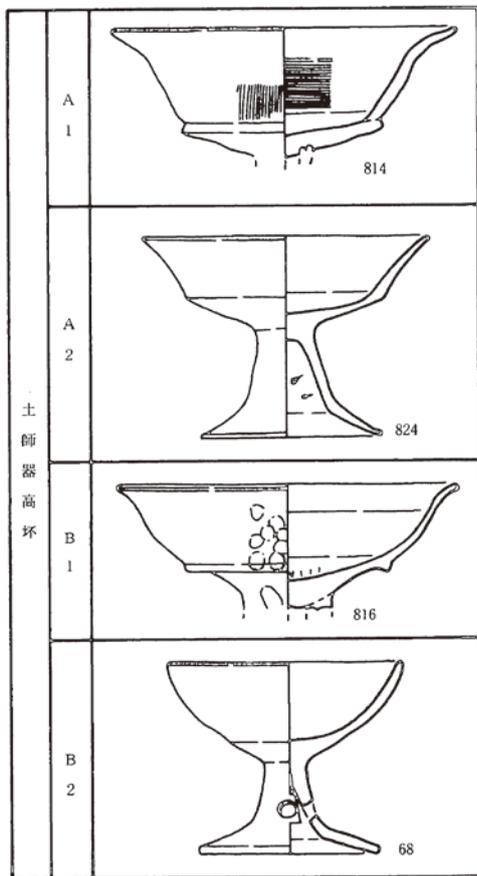


図8 高坏形土器の分類
片桐孝浩 2002『樋端遺跡』香川県教育委員会他

	土師器高坏					同伴 須恵器
	A1	A2	B1	B2	C	
I期 以前	■	■				
I期	■	■	■	■		
II期	■	■	■	■		TG232
III期	■	■		■		TK216
IV期	■	■		■		TK208
V期	■	■		■	■	(TK23)
VI期		■		■	■	TK23

表2 土師器高坏消長表
片桐孝浩 2002『樋端遺跡』香川県教育委員会他

② 亀田修一

- ・中国・四国地方について、古墳時代中後期の土師器・須恵器・朝鮮半島系土器（韓式 [系] 軟質土器・陶質土器）の様相を説明。
- ・四国地方については、香川県地域で多少資料が揃うことから、香川県のセット関係が良好資料を中心に説明されている。

③ 大久保徹也

- ・古墳時代を通じた瀬戸内海エリアの土師器様相の大局的な変遷を提示。
- ・古墳時代土師器の様相・段階を4つに大別し、各段階の代表的な資料群の器種構成から、各段階の土器様相を話し、様相転換の背景について予察を加えている。

④ 蔵本晋司

- ・古墳時代中期の土師器について、比較的時期を通じて安定した出土がみられる高杯、特にその脚部の内面調整に注目して編年試案を提示（図10～13）。

(3) 課題・目的

- ・土師器の器種構成の変遷の説明とその背景にあるものについて記述するために、土師器高杯に限らず他器種も型式分類して、編年することが必要になる。
- ・古墳時代中期以降の土器様式の変化の速さが急速なものだったのか、それとも緩慢なものだったのか。

3 作業・分析の方向性

(1) 作業の手順

- ① 高杯を基軸に、須恵器出現前後に大きく様相を変える器種（甕、壺、甑、鉢・杯）について分類し、共伴関係を整理する。
- ② その他の器種や須恵器との共伴関係を整理する。
- ③ 良好なセット関係にある資料を対象に器種構成の変化を検討し、古墳時代中・後期の土師器の変化の要因について言及する。

(2) 各機種の分類の検討

器種	属性	
高杯	法量	・片桐編年Ⅱ期以降は法量が縮小化（片桐2002）。 →径口指数、全高／杯深と脚部径／脚高の数値の相関（重藤2010）から前後関係を検討
	杯部形態	・須恵器出現前後、杯部屈曲部の段または稜の形骸化（片桐2002、森2004）。 →杯屈曲部の段・稜の有無や口縁部の形態で分類する。
	脚柱部の内面調整	・ヘラケズリを施す丁寧なものから、ケズリを一部省略、さらに粘土紐接合痕が残る粗雑なものへ変化（片桐2002、蔵本2021） →畿内の高杯でも同様の傾向（辻1999、中野2008）
	脚部の透し孔	・有無および位置 →片桐編年Ⅴ期、蔵本編年中5期以降に穿孔されるようになる。
	その他	・脚裾部形態、杯部と脚部の接合技法
甕	法量	・口径ないしは頸部径、体部径と器高の相関
	口縁部形態	・系統（製作技法の伝統）を表す（中野2008）
	調整	・特に肩部の外面調整から布留式甕の変化を追うことができる（中野2008）
壺	法量	・口径ないしは頸部径、体部径と器高の相関
	調整	・特に小形丸底壺の外面調整は古墳時代中期のうちに粗雑化（田嶋1995） →讃岐地域でも同様の傾向（蔵本2021）。
甑	・口縁部形態や蒸気孔の数などの多様な属性から、朝鮮半島に故地を求める研究（酒井1998、小栗2003）、土師器への受容過程を求める研究（京嶋1992、杉井1999）がある。 →各属性の相関関係から検討。	
鉢・杯 ・鉢	・胎土・色調、法量、口縁部形態、底部形態 →各属性の相関関係から検討。	

表3 土師器の属性・分類検討

4 おわりに

- ・須恵器を加えた古墳時代中・後期の土器様式の確立
 - ・須恵器出現前後の器種構成の変化と地域色、およびその背景
- ※地域色については、土師器高杯の杯部と脚部の接合技法（辻1999）、土師器杯・須恵器模倣杯・須恵器蓋杯の出土量から求める研究などがある。

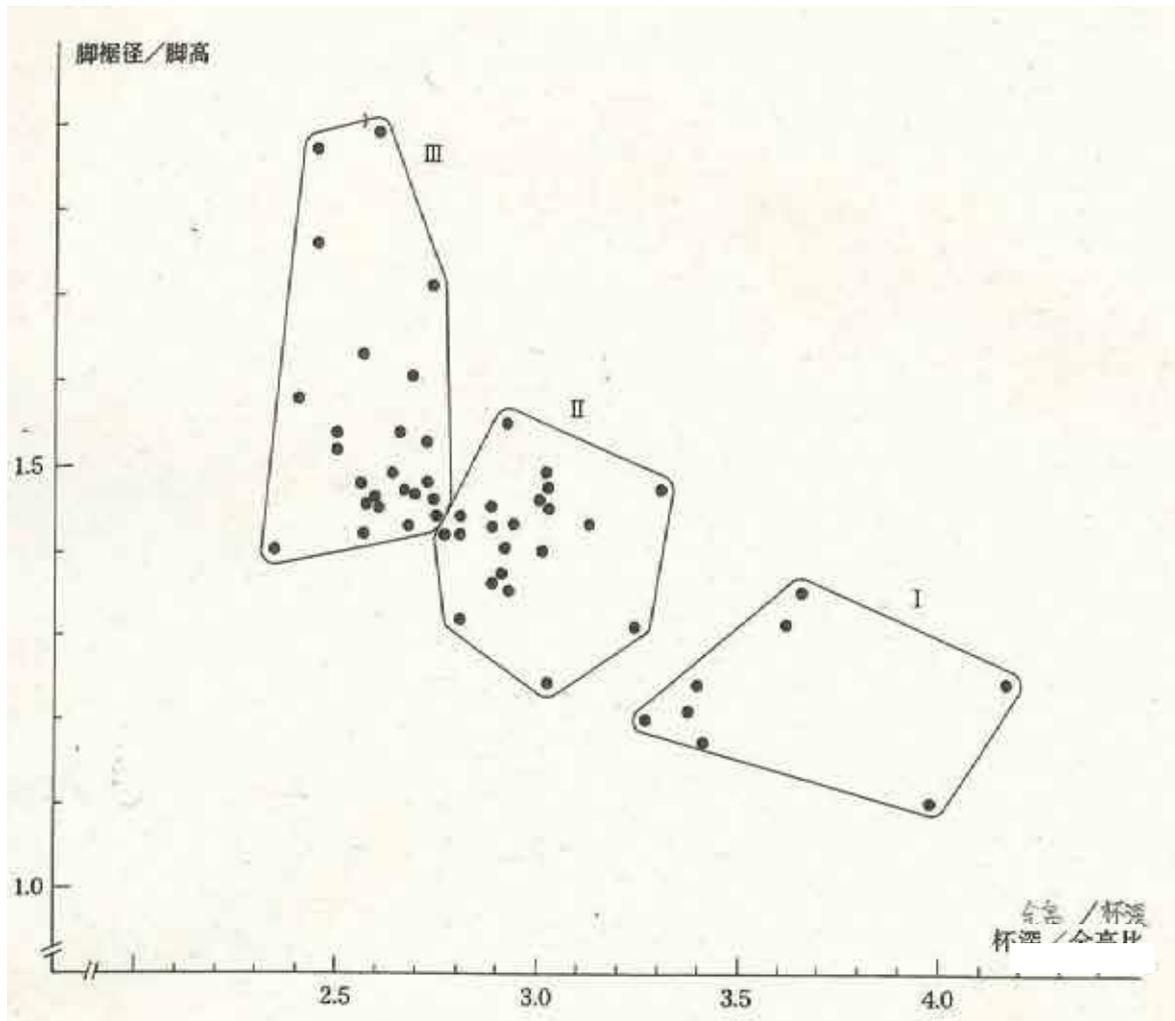


図 14 Ca 系列高杯の脚径/脚高比と杯深/全高比の散布図
重藤輝行 2010 「北部九州における古墳時代中期の土師器編年」『古文化談叢』63 九州古文化研究会

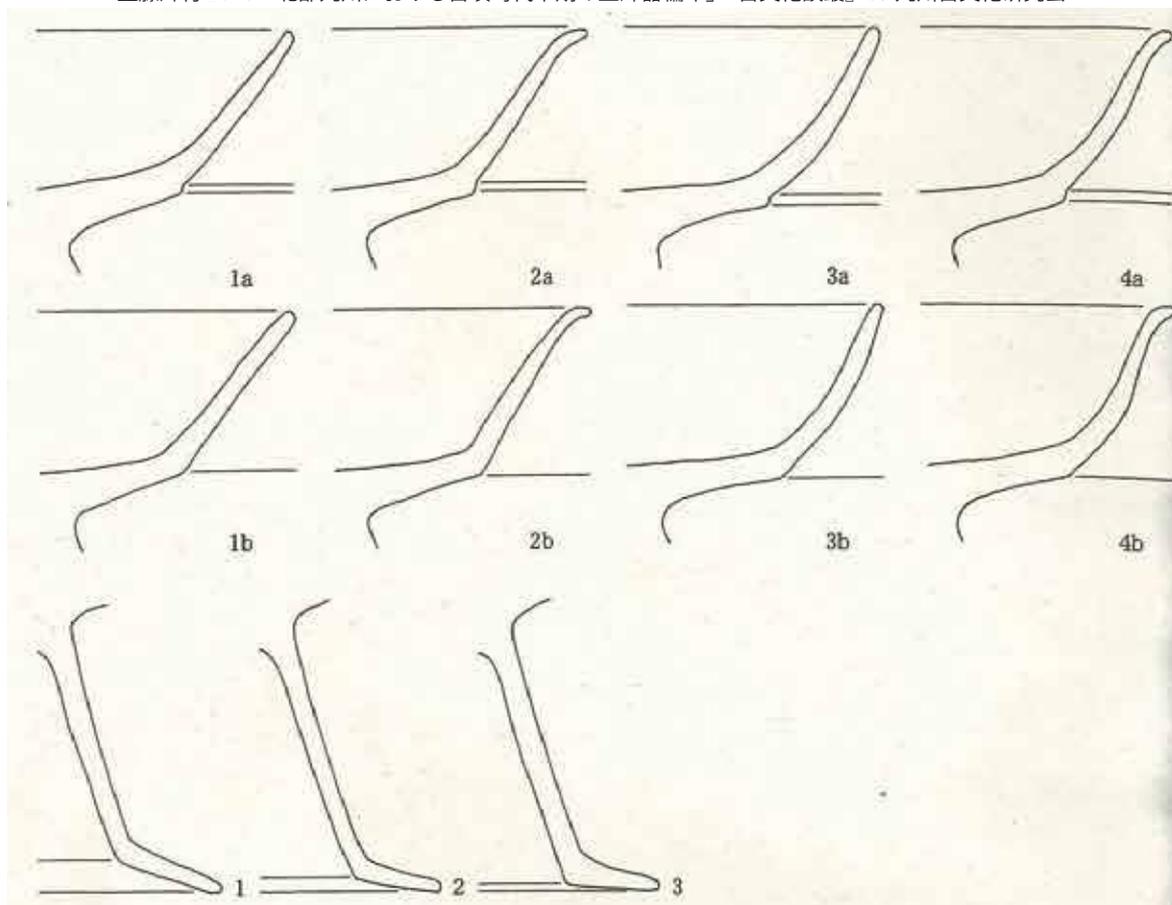


図 15 Ca 系列高杯の杯口縁部形態・脚裾部形態の分類
重藤輝行 2010 「北部九州における古墳時代中期の土師器編年」『古文化談叢』63 九州古文化研究会

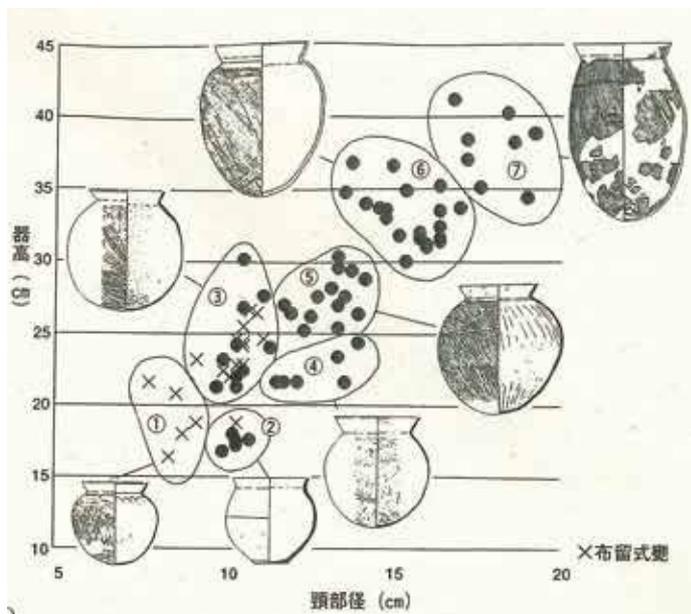


図 16 甕体部形態分類

中野 咲 2010「古墳時代中・後期における奈良盆地の土師器編年とその特質」『考古学論考』第 33 冊 奈良県立橿原考古学研究所

引用・参考文献

- 玉口時雄・小金井靖 1984『土師器・須恵器の知識』東京美術
- 田嶋明人 1995「土器と「古墳時代」」『北陸古代土器研究』第 5 号 北陸古代土器研究会
- 西 弘海 1986『土器様式の成立とその背景』真陽社
- 片桐孝浩 2002『樋端遺跡』香川県教育委員会他
- 亀田修一 2003「中国・四国地方の土器」『考古資料大観』第 3 巻 弥生・古墳時代土器Ⅲ 小学館
- 森 各也 2004「4. 古墳時代の土器」『成重遺跡Ⅰ』香川県教育委員会
- 大久保徹也 2011「土師器の編年 ②瀬戸内」『古墳時代の考古学 第 1 巻 古墳時代史の枠組み』同成社
- 蔵本晋司 2021「香川県」『中国四国前方後円墳研究会第 24 回研究集会 中期古墳研究の現状と課題Ⅴ～古墳時代中期の土師器・須恵器をめぐって～』発表要旨集・資料集成 中国四国前方後円墳研究会
- 辻 美紀 1999「古墳時代中・後期の土師器に関する一考察」『国家形成期の考古学』大阪大学考古学研究室
- 中野 咲 2010「古墳時代中・後期における奈良盆地の土師器編年とその特質」『考古学論考』第 33 冊 奈良県立橿原考古学研究所
- 重藤輝行 2009「古墳時代中期・後期の筑前・筑後地域の土師器」『地域の考古学 佐田茂先生佐賀大学退任記念論文集』佐田茂先生論文集刊行会
- 重藤輝行 2010「北部九州における古墳時代中期の土師器編年」『古文化談叢』63 九州古文化研究会
- 酒井清治 1998「日韓の甕の系譜から見た渡来人」『檜崎彰一先生古希記念論文集』檜崎彰一先生古希記念論文集刊行会
- 小栗明彦 2003「南郷遺跡群出土韓式系土器の系譜」『南郷遺跡群Ⅲ 橿原考古学研究所調査報告第 74 冊 奈良県立橿原考古学研究所
- 京嶋 覚 1992「古墳時代後半期における土師器の器種構成」『長原・瓜破遺跡発掘調査報告書Ⅲ 財団法人大阪市文化財協会
- 杉井 健 1999「甕形土器の地域性」『国家形成期の考古学』大阪大学考古学研究室

挿図出典等

- 文化庁文化財部記念物課編 2010『発掘調査の手引き—整理・報告書編—』天理時報社
- 九州歴史資料館 2023『「土器が語る。多文化交流の町、西新町遺跡」～国内外あちこちから来ました～』
- 香川県教育委員会他 1996『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 25 冊 中間西井坪遺跡Ⅰ』
- 香川県教育委員会他 1995『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 4 冊 太田下・須川遺跡』
- 香川県教育委員会他 2002『空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第 5 冊 空港跡地遺跡Ⅴ』